

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 16日

事業所名 なないろKids2nd

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	小グループでの活動にしており、一人ひとり十分なスペースが確保できるように運動を進めています。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	気がきが無駄にならない様に常勤・非常勤を問わず話しやすい環境を意識しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	スタッフ全員で確認し、課題を把握したうえで取り組みます。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	60%		正式な機関には現状、依頼は出来ておりません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	2か月に一回、療育に関する研修を行っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	40%	60%	その児童毎の課題や特性に応じた療育を心がけています。	今後、必要があれば検討したいと思います。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%		基本的な運動プログラムの流れの中で個々に課題に応じて適宜取り組み内容を工夫したいと思います。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	取り組んだ内容に対しての結果をチームで共有したうえで飽きずに運動を楽しめるように工夫しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	基本は小集団での運動療育ですが、土曜日の午後のみ生活療育を行っています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%	基本的には小集団での活動のみになります。	運動を通して社会性の向上を目指すのも事業所としての目標の一つです。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	一緒に療育に入る職員と、どのようにアプローチするかを話し合っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	良かった点悪かった点を出し合い、次回に向けて話し合っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	少しでも気になることや普段と違う様子があれば細かく記録する。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	半年に一度、モニタリングを行い個別支援計画書を作成しています。	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	80%	20%	運動療育がメインですが、土曜日の午後は生活療育を行っています。	運動の際に出来る様になったことが生活の場でも活かせるように上手く活用していきたいと思います。
--	----	---------------------------------	-----	-----	---------------------------------	--

関係機関 関係や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎担当の変更など必要に応じて連絡させて頂いてます。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	80%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40%	60%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	40%	60%		まだ学校を卒業された児童はおりませんが、成人後も円滑に生活していける様に情報提供をさせて頂ければと思います。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	20%	80%		共有して頂いている発達検査の結果なども療育に活かしたいと思います。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	80%		地域の中でより良い療育を行っていくためにも参加できればと思います。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	毎回の送迎時やLineを利用して連絡しやすい環境を意識しています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%		相談事などは個別に受付けていますが、ペアレントトレーニングという形では難しいです。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%		ご相談はいつでも受け付けています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	素早く対応できるように心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	80%	20%	ブログやインスタグラムを活用しています。	この機会に周知を進めたいと思います。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	児童毎に理解しやすい情報の伝え方を工夫しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	80%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	合計6回、年間で行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	グループ全体で研修を行い、未然に虐待を防げる環境を心がけています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	40%		どうしても必要になった際は正しい手順で、解除に向かった支援をしていきたいと考えています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%		気付きが無駄にならない様に端的に記入出来る様にしています。